

平成 22 年 9 月 14 日

株式会社昭和丸筒
営業本部副本部長
尾持輝樹

全国紙管工業組合上海視察リポート

この度、紙管工業組合東部地区部会主催で中国の現地事情を実際に訪問して体感してみようという事になり、初めて参加させていただきました。特に今回は上海万博が開催されているまたとない絶好のタイミングでもありましたので大変ラッキーであったと感謝しております。

さて、中国はニュースで見聞きするとおり、上空からはビル、マンションの林立や、多くの青い工場の屋根、大陸に広がる川や田んぼといかにも大地という言葉がピッタリ当てはまる光景が次々に入って来ます。上海虹橋空港に降り立っても想像通り街の中は東京都心と変わりなく、ドイツ、日本の高級車、電動バイク、自転車、人の往来が激しいうえ、しかも車や人の割り込みは自由奔放で大阪のおばちゃんも顔負けといったルールがあってないすごい世界です。

暑い上海でそういった事に圧倒されながら、しかも、強烈な個性の先輩諸氏に後押しして頂きながら、暴飲暴食の楽しい四日間があつという間に過ぎ去りました。

そのような感じで以下に簡単な現地レポートを報告させていただきます。

1. 9 月 9 日（木） 上海維拉紙管有限公司

上海から程近い口ケーションで、リーマンショックでも売上が一時的に大きく落ち込んだと聞きましたが、今期はリーマンショック前の 1.5 倍の売上を見込めそうだといううらやましい状況です。しかもそのことを早く察知出来たのか、素早い動きで昨年とは違う場所にかなり大きな工場へ移転したと聞き驚きを隠せません。

維拉紙管では陳武（ChenWu）副総経理、楊進（YangJin）工場長の 2 名が案内してくれました。主に合成繊維用紙管と金属箔用大口径紙管、建築用紙管を製造しており、万博の日本産業館のデザイン壁面に紙管を供給したとの事です。

売上は当期 5,000 万元（約 7 億 5 千万円）を見込むそうで、原材料はローカルのフェニックスやサンシャインといったメーカーから板紙を購入し、価格相場も A 級で約 3 元（¥45/kg）といったところです。原価構成についても材料比率は 70% 近くで、限界利益も 20% ぐらいで運営されています。日本だと大変厳しい内容ですが設備投資費や人件費の安さでやっていけるのでしょうか。

この工場は 1,000ton 強の板紙を消費しており、従業員も 150 名くらいだそうです。設備は旧式でパンフレットの写真とは程遠く、また不良品が納品されても、B 級価格で対応するから問題ないとコメントしていたあたりいかにも中国らしく、商売人の国である事を改めて認識させられました。

使っている板紙は繊維用紙管を作っているせい A、B、C 級の材質を使い分けておりますが、工場見学で見たものは凸凹がひどく、日本だと完全に NG のレベルでした。



スリッター、スパイラルワインダーもテンションコントロールが管理できてなく、人手の感覚でしかもきわめて危険な作業方法であったり、ワインダークルーは 5 名くらいの配置であったり、6 “ くらいのマンドレルを手でかついで交換していたりと 30 年以上前のやり方を彷彿させるような状況で、安全・改善に長けた方がいると思わず手がうずうずするのではないのでしょうか。

仕上げ機はやや現在に近い形態ですが、それでも NC 制御のマシンは 1 台もありません。必要ないのかもしれませんがそれくらい自動化は遅れています。人件費の高騰がターニングポイントでしょう。

ネガティブな報告をしましたが、従業員は一所懸命に作業をしており、活気が伝わってきますし、繊維用紙管の外見だけで評価するならば、標準レベル以上の出来栄で、中国の懐の広さと底力が感じられました。

2. 9 月 10 日（金） 上海万博

会場はホテルの新錦江から 20 分ほどの場所で、夏休みが終わった 9 月の平日にもかかわらず、38 万人の入場者だったそうです。（帰国前に聞くと土曜日は 48 万人、日曜日は 58 万人の入場者だったそうです！！）日本産業館は日本化工機材さんのご配慮で VIP 待遇にて並ばずに入場で

きました。帝人、キッコーマン、近鉄等日系企業の商業的ビジュアルが殆どで壁面の紙管以外特別な展示も無く見終わりました。時間調整でオマーン館に入り、予約がないと入れない中国館に並びました。がしかし、入場に2時間以上、中国人のけたたましい会話、自由な横入りに緊張が耐えないまま期待した展示物も兵馬俑のみで万博に行けた事以外やや期待はずれの印象です。とにかくくたくたになった一日でした。

3. 9月11日(土) 蘇州観光

小雨の中、蘇州の寒山寺(中国4番目の有名寺)を目指しマイクロバスで揺られる事1時間半、風光明媚な落ち着いた雰囲気を楽しんでいましたが、中国はやはり広いです。全国各地からの観光客でごった返し、しかもけたたましい中国人ガイドの聲が彼方此方でこだます情景は日本庭園に慣れ親しんだものにとっては興ざめの感があります。しかし流石4,000年の歴史です。ダイナミックな建造物、広大な風景は一見の価値がありました。

蘇州は古くは三国志に出てくる呉の国で、織物が盛んであったとの事。日本の呉服はそこから来たものだそうです。途中お昼休みに立ち寄った絹製品の工場では数名の方が奥様の土産に絹の布団製品を買われていました。よほど普段の行いが・・・これ以上は止めておきます。

4. 9月12日(日)

いよいよ帰国が近づきました。中国の発展と中国の人々の活気に圧倒された日々があっという間に過ぎました。上海料理は少し甘く香辛料がスピリッツできいてます。ややアルコール度数の低いビールと正反対の紹興酒の組み合わせと毎日の油料理が体に負担となり、日本食が恋しくなります。

飛行機で2時間強、東京 大阪並みの飛行時間を無事に終え、帰宅の途につきましたが、その前に東京についた途端すし屋に飛び込んだ気持ちは皆さんも十分理解できるでしょうね。

末筆になりますが、今回アレンジいただきました部会長の武川社長様、副団長の小澤社長様、大澤社長様をはじめ皆様には感謝を申し上げ、上海視察のレポートとさせていただきます。

以上